

## ■ ロールプレイのシナリオ

### ○ 少女・ルビナ (11歳 女の子)

できれば家族と一緒に暮らしたい。家族も友だちもないダッカで知らない人の家で生活するのはとても寂しいわ。それに本当は勉強がしたいの。学校に行って勉強をすれば、きっと将来良い仕事に就くこともできると思うの。でも妹や弟のことを考えると、長女の私が働いてお金を稼がなきゃならないわ。家族の生活が楽になるのなら、働くこともしようがないと思っています。

ルビナにとっての幸せとは？

---

### ○ 父親・ニタイ (35歳)

女の子は良い相手を見つけて結婚するのが一番の幸せなんだ。あと数年で家庭に入るんだったら勉強するより家の仕事を一つでも覚えた方がいいだろう。親戚のシム(13歳)も昨年から家事使用人として働きに出ているし、ルビナもそろそろ働ける年頃だろう。ちょうど仲介人から良い仕事先の紹介があったしな。政府の役人の家だっていうから、きっと娘にきつくあたることもないだろう。

ルビナにとっての幸せとは？

## ■ ロールプレイのシナリオ

### ○ 母親・シャンティ（28歳）

複雑な気持ちだわ。本当は自分の近くに来てほしいけど、うちには経済的な余裕がないから…。私のように結婚を理由に学校を辞めて、文字の読み書きもできないにおとなになって恥ずかしい思いはさせたくないの。これからの時代は女の子だって結婚しても仕事を続けるべきだし、自分で使い道を決められるお金を持っていることは本当に大切だと思うわ。夫は下手な知恵をつけるなと言うけれど…この子の幸せを考えるとどうしたら良いかわからないわ。

ルビナにとっての幸せとは？

---

### ○ 仲介人・アロム（38歳 男性）

どうせ村には仕事はないんだし、このままであなたたちの生活がよくなることはないだろう。だったらちょうどいい働き口があるのだから、ルビナを家事使用人として働きに出すのが一番良い方法なんじゃないかな。雇用主は三度の食事と寝る場所を提供して、一年に一回は村に帰る費用も出してくれるって言っているし、ルビナがその気なら学校に通わせても良いとまで言う人は少ないんだ。私はルビナやあなたたち家族のことを思って、この仕事を紹介しているんだよ。

ルビナにとっての幸せとは？

## ■ ロールプレイのシナリオ

### ○ 雇用主・カウンセラー（32歳 女性）

これまで働いていた子が結婚するって仕事を辞めてしまったので新しい子を探しているの。うちの子（5歳）の子守り役としてルビナの年齢はちょうどいいわね。きちんと仕事をしてくれば、結婚持参金※を出してやってもいいわ。私は貧しい家庭を助ける気持ちでルビナを雇いたいと思っているのよ。でも本音を言うと、おとなより給料が安く済むし、口ごたえもせずに働くから雇うなら子どもがいいのよね。

※結婚持参金…バングラデシュには、結婚する時に女性側が夫の家族にお金を渡す慣習がある。持参金は一般的に若い方が安いと言われている。

ルビナにとっての幸せとは？

---

### ○ 村の小学校校長・サイフル（53歳 男性）

子どもには健やかに成長する権利や教育を受ける権利などがあります。私たちの村では、5年生になるまでに小学校を辞めてしまう子どもが3割くらいいます。小学校に入学させない保護者もありますが、子どもたちの学ぶ権利を奪っているということを自覚してください。それにお父さん、ダッカにいる方が娘は幸せだと言っていますが、雇用主からひどい扱いを受けているケースもあるんです。親元を離れて朝から晩まで密室で働いている自分の子どもを想像してみてください。本当にそれがルビナの幸せだと思いますか？

ルビナにとっての幸せとは？

## ■ ロールプレイのシナリオ

### ○ NGO スタッフ・マフザ（43歳 女性）

もし家庭が貧しく、どうしても働き続けなくてはいけないのであれば、せめて私たちの運営するセンターに通わせてください。センターは一日 2 時間、文字の読み書きや簡単な算数を学べるほか、お絵かきをしたり歌を歌ったり、同じ境遇の少女たちとお話をしたり、子どもらしい時間を過ごすことができます。家事の技術トレーニングも行っているので、雇用主にとってもプラスの面があると思いますよ。本来であれば子どもは働かない方がよいですが、まずは働く子どもたちが安全に、安心して働ける環境を作ることが大切だと思っています。

ルビナにとっての幸せとは？